

春を告げる白鳥の群れ



後志管内蘭越町の田んぼにコハクチョウの群れが飛来している。毎年この時期、越冬を終え北上する中で同町に立ち寄る。今年は積雪が少ないため、例年に比べ飛来時期が早い様子。コハクチョウはこの地で羽を休めた後ユーラシア大陸に向け旅立つ。

(写真提供：蘭越町=3月10日撮影)

CONTENTS

●「北海道の農業農村整備の展開方向について考える」をテーマに 水土里ネットセミナー開催……………	2	●土地改良区の指導監査等について意見交換 土地改良区参事・事務局長会議……………	4
●令和2年度事業計画、予算など通常総会附議事項等を承認 第5回理事会……………	2	●本会2名の技術職員が栄誉に輝く 後志総合振興局・留萌振興局優秀技術者等表彰……………	6
●土地改良区の体制強化に向けた本会の対応等について報告 第2回土地改良区委員会……………	3	●本部・支部の連携強化を確認 支部事務局長会議……………	6
●土地改良事業功労で3氏に栄誉 北海道産業貢献賞……………	4	●令和2年度事業計画等を協議 管理運営体制強化、受益農地管理強化の両委員会を開催……………	6
●令和元年度「とんぼの未来・北の里づくり」事例発表会開催 北海道日本型直接支払推進協議会……………	6		

道民の財産、「水」「土」「里」を次代へ引き継ごう!

「水土里ネット北海道」は北海道土地改良事業団体連合会の愛称です

「北海道の農業農村整備の展開方向について考える」をテーマに

水士里ネットセミナー開催

北大院農学研究院の柳村教授らを講師に

本会は1月30日、約430名の参加を得て、札幌市内のホテルで令和元年度北海道水士里ネットセミナーを開いた。写真。北海道大学大学院農学研究院の柳村俊介教授、岩見沢市企画財政部情報政策推進担当の黄瀬信之次長、農林水産省農地資源課多面的機能支払



推進室の高嶋弓子課長補佐を講師に招き、「北海道の農業農村整備の展開方向について考える」をテーマに、北海道農業の現状と課題や今後の農業農村整備の展開方向などについて認識を深めた。

冒頭、挨拶に立った加藤聡専務は、道内において1月までの積雪が記録的に少ない状況に触れ、「春先の水不足が心配されており、関係機関と連携して必要な対応等について情報発信していきたい」と述べた。また、令和2年度農業農村整備関連の国費予算について、「本道において、地域の要望に応え得る予算が確保できるものと考えており、皆様の度重なる熱心な要請活動が形となった。今後も地域がめざす農業・農村の実現に向け、本会としても、事業の円滑な推進に力を尽くしていく」と決意を述べ、支援・協力を求めた。



セミナーでは、最初に柳村教授が、「北海道農業の次世代継承」問題の本質と課題

「と題して講演。北海道は、経営規模が大きい反面、後継者を確保して

いる農家が少ない中で、新規参入を確保していくためには、引退農業者サイドの取組を先行させ、それを前提とした就農支援対策の必要性を強調。「新規参入を実現するためには、第3者継承の仕組みや特徴を関係者が熟知することや、継承者が取得したいと感じる農地や物件などを整備することが重要。また、前もって移譲に向けた計画的な準備が必要」と説いた。



「ICT（情報通信技術）を活用したスマート農業の取組」をテーマに講演

した黄瀬次長は、岩見沢市における小麦、水稲、大豆等、露地野菜を4年で回す「空知型輪作」に代表される農業の特徴や、それを支えるスマート農業の取組として、50メートル単位の予測できる農業気象サービスや、トラクター等の精度の高い自動走行を可能とするRTK-GNSSシステムの効果などを紹介。スマート農業の実現には、「生産者、農業関係団体、関連企業の『産』、大学の『学』、北海道、岩見沢市の『官』の連携が重要」とし、今後の展開として、地域生産者へのスマート農業普及に向けた人材育成や大きな投資となる機能導入への支援などの必要性を強調した。「土地改良区と多面的機能支払活動組織との連携強化」をテーマに講演した高嶋課長補佐は、土地改良法の改正



により地域の活動組織が土地改良区の施設管理准組合員に位置付けられた仕組みを紹介し、「組合員の減少により施設の維持管理等に苦勞している土地改良区にとって、多面的機能支払の活動組織と一層連携することも必要」と呼びかけた。最後に都道府県水士里ネット会長会議顧問である進藤金日子参議院議員、宮崎雅夫参議院議員のビデオメッセージを上映し、セミナーを締めくくった。

令和2年度事業計画、予算など
通常総会附議事項
等を承認
 第5回理事会

本会は2月28日、本年度第5回理事会を本会会議室で開き、令和2年度事業計画及び収入支出予算をはじめとする本年度通常総会に附議すべき事項等について審議し、原案通り承認した。事業計画では、本会第8次中期計画の業務推進の基本方向に沿って、会員の共同利益の増進と自託に因るため、業務遂行に努めるとし、会員等への技術援助・協力や改正土地改良法を踏まえた土地改良区の業務運営の適正化等

への支援などを重点的に取り組むこととした。

議事に先立ち、加藤聡専務より、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から令和元年度通常総会は、極力会員の出席を必要としない方法・規模での開催を提案し、了承された。

議事では、尾田則幸会長を議長に、元年度通常総会の招集及び総会に附議すべき事項などについて審議した。

本年度通常総会の招集を3月24日、本会会議室での開催とし、総会に附議すべき事項では、元年度補正予算、2年度事業計画及び予算の設定、各種事業賦課金の賦課基準及び徴収方法等について審議し、原案どおり承認した。

2年度事業計画の基本方針では、本会第8次中期計画の業務推進の基本方針に沿って、会員の共同利益の増進と負託に応えるため、会員に対する技術援助や国、道に対する技術協力、農業土木技術者の確保・育成、改正土地改良法を踏まえた土地改良区の業務運営の適正化等への支援などを重点に、組織の総力を挙げて業務の遂行に努めることとし、技術援助・協力や会員支援、日本型直接支払、水土里情報、施設管理、土地改良負担金対策、調査研究などの支援業務等に積極的に取り組むこととした。

これらの事業計画等に対応するため



2月28日に開催した第5回理事会

に57億7千万円の2年度予算を計上し、通常総会に提案する。

そのほか、職員給与規程の一部改正、土地改良区の員外監事設置の例外規定に対応するために本会が行う指導監査に係る土地改良区指導監査規程の設定などについて審議し、承認した。

土地改良区の体制強化に向けた本会の対応等について報告

第2回土地改良区委員会

本会は1月30日、令和元年度第2回土地改良区委員会（委員長 河村康英・渡島平野土地改良区理事長）を本会会議室で開いた。写真、令和2年度農業農村整備事業に関わる国費予算の概要

について情報を共有したほか、土地改良区の指導監査に係る本会の対応等について協議した。

委員会には、委員10名のほか、本会の加藤聡専務、本間勤常務、道農政部農村振興局農業施設管理課の川上浩一指導管理担当課長をはじめ同課担当職員が出席。

冒頭、挨拶に立った河村委員長は、農業農村整備関連の国費予算について、「2年度執行ベースの国費予算は、全国で前年度を上回る6515億円が確保され、このうち、北海道分の農業農村整備事業費は、対前年比2・6%増の1389億円となった。予算の確保等においては、道内の土地改良区理事長をはじめ土地改良関係者の強力な要請行動等の成果である」と感謝を述べた。議事では、令和2年度農業農村整備事業に関わる国費予算の概要など6件について意見を交わした。

まず、道から令和2年度の農業農村整備事業関係予算の概要と、土地改良法改正事項や改正に係る道内土地改良区の取組状況等について情報提供された。

次いで、土地改良区の体制強化に向けた支援として、複式簿記会計導入に向けた巡回指導に係る対応状況や令和2年度の指導計画案を報告。また、土地改良区指導監査に係る本会の対応として、法改正に伴う制度等の見直しを



1月30日に開催した第2回土地改良区委員会

踏まえた指導監査規程を定め、令和2年度より規程に沿った指導監査を実施することなどを説明した。

その他、農業水利施設賠償責任保険の補償内容等の見直しについて、アンケート調査結果を踏まえた新たな補償メニュー等を提示し、令和2年度からこの補償内容等で進めることについて確認した。

当日出席した委員長以外の委員は次の通り（敬称略）。

（副委員長）

▽鈴木弘美（富良野土地改良区理事長）

（委員）

▽古谷陽一（篠津中央土地改良区理事長）

▽横井信一（深川同）

▽榎本好男（てしおがわ同）

▽酒井誠一（狩場利別同）

▽山田英雄（厚真町同）

▽小森隆寛（帯広市同）

▽岩崎隆幸（北見同）

▽丹羽雅幸（苫前同）

北海道産業貢献賞

土地改良事業功勞で3氏に榮譽

北海道は2月14日、令和元年度北海道産業貢献賞（農業関係功勞者）の表彰式を札幌市内のホテルで開いた。土地改良事業功勞では、堀井修氏（前・大雪土地改良区理事長）、伊林正氏（前・大雪土地改良区理事長）、石丸修一氏（前・大雪土地改良区参事）の3氏が受賞の栄に浴した。



土地改良事業功勞の受賞者 左から石丸氏、堀井氏、伊林氏

同賞は、農業関係のそれぞれの分野で永年にわたり献身的な努力を積み重ね、卓越した識見と指導力をもって、本道の農業・農村の振興・発展に多大の貢献をした方々に贈られるもの。表彰式で、土屋俊亮副知事が辞書を述べ、「永年にわたりそれぞれの立場で献身的なご努力を重ねられ、本道農業と地域の活性化に大きな成果を上げてこられた受賞者の皆様に、あらためて敬意を表し深く感謝申し上げます」と受賞者の功績を称えた。

表彰状の授与では、農業団体等功勞者として、農業協同組合功勞者3名、農業委員会等功勞者4名、土地改良事業功勞者3名、その他農業団体功勞者2名、農業指導等功勞者として、農業指導功勞者5名、家畜衛生等功勞者7名、農業技術功勞者2名、農業・農村振興等功勞者として、農業経営等功勞者2名、農業・農村振興功勞者5名にそれぞれ表彰状が手渡された。

【土地改良事業功勞の各氏の功績】

堀井氏 平成11年以来、多度志土地改良区理事、上席理事、理事長として国営かんがい排水事業や道営農地整備事業等各種事業の計画的推進に寄与するとともに、土地改良施設の管理省力化を図り、業務運営の見直しなどを進め、賦課金を減額するなど、区の健全な運営に尽力した。また、北海道土地改良事業団体連合会理事などを務め、地域農業はもとより全道的見地から農業農村の振興発展に多大な貢献をした。

いち早く複式簿記を導入するなど、区の健全な運営に尽力した。また、北海道土地改良事業団体連合会農村整備推進委員などを務め、地域農業はもとより全道的見地から農業・農村の振興発展に多大な貢献をした。

伊林氏 平成12年以來、旧・旭鷹土地改良区理事、大雪土地改良区理事、理事長として、国営かんがい排水事業や道営農地整備事業等各種事業の計画的推進に寄与するとともに、合併以前の旧4区の地区別賦課金を統一賦課金とし負担額の平準化を図り、全国的に

石丸氏 昭和52年に旧・近文土地改良区、旧・旭鷹土地改良区、大雪土地改良区の職員として奉職して以来、総務管理部門を所掌し、全道でいち早く土地台帳・会計等のシステム化を成し遂げ事務処理の効率化及び省力化を図り、水管理システムを開発し維持管理費の節減や維持管理の効率化に貢献するとともに、近隣土地改良区との合併に尽力するなど、組合員の負担軽減やサービスの向上に貢献した。また、各種土地改良事業の採択に尽力するなど、地域農業の振興に多大な貢献をした。

土地改良区の指導監査等について 意見交換

土地改良区参事・事務局長会議

本会は1月31日、令和元年度土地改良区参事・事務局長会議を開いた。全道から土地改良区参事ら60名と道農政部農業施設管理課の担当職員の出席を得て、令和2年度農業農村整備事業に関する国費予算の概要について情報提供したほか、本会が行う土地改良区の指導監査等について意見を交わした。

会議の冒頭、挨拶に立った本会の加藤聡専務は、「令和2年度の農業農村整備関連の国費予算の確保では、地域からの要望に応える成果を得られたと考えており、皆様の取り組みに感謝申し上げます。本日は、土地改良法の改正を踏まえた巡回指導や指導監査に係る本会の対応などについて意見交換をさせていただき、実りある会議となるよう協力をお願いする」と述べた。

会議では、道の斉藤重幸主幹が2年度農業農村整備に関わる国費予算の概要と土地改良法改正事項について情報提供。また、同課の榎研一主幹からは土地改良法の改正に伴う土地改良施設資産評価データ整備事業の状況について説明し、意見を交わした。

次いで、本会事務局が土地改良区の指導監査に係る本会の対応等について、法改正に伴う制度等の見直しを踏まえた指導監査規程を定め、令和2年度より規程に沿った指導監査を実施することとしたほか、農業水利施設賠償責任保険の補償内容等の見直しについて、アンケート調査結果を踏まえた新たな補償メニュー等を説明し、令和2年度からこの補償内容等で進めることについて了承を得た。



土地改良区の参事ら約60名が出席した参事・事務局長会議

冒頭、尾田会長が挨拶に立ち、多面的機能支払制度について、「本年度から新たな5ヶ年対策がスタートし、全道の耕地面積の2/3以上をカバーし、5万人を超える方々が参画する取り組みへと広がっている。まさに、農地や農業用施設といった生産資源を適切に保全管理し、これらを支えている地域の共同活動などを国民全体で支援する、本道にとって大変重要な政策であり、農業・農村が持っている多面的機能が、今後とも健全に維持・発揮されるよう、その取り組みをしっかりと

令和元年度 「とんぼの未来・北の里づくり」 事例発表会開催

北海道日本型直接支払推進協議会

北海道日本型直接支払推進協議会（会長 尾田則幸・水士里ネット北海道会長理事）は2月14日に、令和元年度「とんぼの未来・北の里づくり」事例発表会を札幌市内のホテルで開いた。写真。全道の活動組織のメンバーを中心に関係者約1900名が参加。多面的機能支払制度の一層の推進に向け、道内における活動事例発表のほか、外来種の駆除活動やたんぼダムの実証試験結果、国からの基調報告などの研修を行った。



支えていきたい」と述べた。事例発表では、道協議会に設置している事例研究会が、岩見沢市、名寄市、遠軽町、北見市の同研究会会員地域で実施した現地視察研修の成果について、「施設の長寿命化」、「活動の広域化の経緯と今後の取組」などの各活動組織の取組事例を紹介した。多面的機能支払制度の推進に資する研修では、道環境生活部生物多様性保全課の坂村武主幹から「アライグマの捕獲について」、道農政部農村計画課の平沢俊主査から「省力的な田んぼダ

ムの実証試験について」、遠軽町の遠軽ウチダザリガニ防除ボランティアグループの金子代表から「外来種（ウチダザリガニ）の駆除活動について」それぞれ課題に対する活動内容や対応・効果について紹介した。

基調報告では、農林水産省農地資源課多面的機能支払推進室の長山政道室長が「多面的機能支払制度の効果、今後の展開方向について」と題して講演。この中で「多面的機能支払交付金は、全国で227万ha、日本の農地の約55%、北海道においては7割に迫る勢いで実施されている。全国ではこの取組により、遊休農地の発生抑制や地域資源である水路や道路などが適切に保全管理され、景観や生態系の保全も図られているほか、いろいろな方の参加によって、一緒に一つの目的に向かうことは、地域コミュニティの維持・強化に繋がるなどの効果が挙げられており、また近年多発する様々な災害に対しても、予防と復旧に役立っている。今後、共同活動の継続のための体制強化に資する広域化を進め、その中で土地改良区との連携強化を図るとともに、多様な人材の参画、特に女性の参加を今後増やしていくことを推進していくこととしている」と述べた。最後に、本会技術部地域支援課より、本年4月から本格運用する事務支援システムの概要について説明した。

本会2名の技術職員 が栄誉に輝く

後志総合振興局・留萌振興局優秀
技術者等表彰

後志総合振興局及び留萌振興局が行った令和元年度の発注等にかかる優秀技術者等表彰において、本会から農業農村整備事業にかかる委託業務で2名の技術職員が優秀技術者に選ばれた。

この賞は、各（総合）振興局が発注した工事等を通じて技術力の向上と意欲の高揚を図るとともに、地域振興に寄与することを目的として行われているもの。

本会の受賞者は次の通り

□後志総合振興局

▽地崎哲志

実施計画名駒地区設計1

□留萌振興局

▽山本憲史

実施計画二股第2北地区設計1

本部・支部の連携強化 を確認

支部事務局長会議

本会は2月18日、令和元年度第2回支部事務局長会議を本会会議室で開いた。2年度の事業計画や、支部運営費割当見込額等について確認した。

会議には支部の事務局長のほか、本会の加藤聡専務、本間勤常務らが出席。

冒頭、加藤専務が挨拶に立ち、本会事業の円滑な運営・推進に向けた支部の支援・協力を求めた。

協議事項では、元年度の支部運営費の割当見込や2年度の本会事業計画、賦課基準案、支部運営費の当初割当額を確認した。

また、昨年の消費税率の改正に伴う報告様式の変更について説明したほか、第43回全国土地改良大会について情報提供を行った。

令和2年度事業計画等 を協議

管理運営体制強化、受益農地
管理強化の両委員会を開催

本会は、2月28日に、土地改良区体

制強化事業実施要綱に基づき設置している管理運営体制強化委員会（委員長

Ⅱ鈴木弘美・富良野土地改良区理事長）

と受益農地管理強化委員会（委員長Ⅱ

山田英雄・厚真町土地改良区理事長）

の両委員会を開き、土地改良施設の円滑かつ適正な管理および事業運営の強化等

を図るための施設・財務管理強化対策と、

換地事務の適正かつ円滑な推進を図るための受益農地管理強化対策

の31年度事業計画等について協議し、提案通り承認した。

管理運営体制強化委員会では、元年度事業の土地改良施設の診断や指導実

績、土地改良事業等に関する相談業務等について報告したほか、2年度事業計画では、

施設の定期診断、土地改良区等複式簿記会計指導計画、非補助土地

改良事業推進計画等について承認した。

また、受益農地管理強化委員会では、会議に先立ち、

正副委員長の互選が行われ、委員長には山田英雄・厚真町土地改良区理事長、

副委員長には酒井誠一・狩場利別土地改良区理事長がそれぞれ再任された。

議事においては、換地事務指導の実績、換地技術者等の活動状況について

報告したほか、新規担当者や交換分合実務などを対象とした研修計画を盛り

込んだ2年度事業計画、予算案について承認した。

委員長以外の委員は次の通り（敬称略）。

【管理運営体制強化委員会】

（副委員長）

▽横井信一（深川土地改良区理事長）

（委員）

▽松野康夫（北海道開発局農業水産部農業計画課長）

▽川上浩一（北海道農政部農村振興局農業施設管理課指導管理担当課長）

▽酒井誠一（狩場利別土地改良区理事長）

▽古谷陽一（篠津中央同）

▽高玉幸吉（鶴川同）

▽森和志（株）日本政策金融公庫札幌支店農林水産事業副事業統括

【受益農地管理強化委員会】

（副委員長）

▽酒井誠一（狩場利別土地改良区理事長）

（委員）

▽松野康夫（北海道開発局農業水産部農業計画課長）

▽酒井順一（札幌法務局民事行政部首席登記官）

▽小坂敏秋（北海道農政部農村振興局農業施設管理課長）

▽古谷陽一（篠津中央土地改良区理事長）

▽桂一照（栗山同）

▽鈴木弘美（富良野同）

▽斉藤重幸（北海道農政部農村振興局農業施設管理課主幹）